

会議録

会議の名称	西東京市公民館運営審議会平成17年度第7回定例会
開催日時	平成17年10月19日（水曜日） 18時30分から20時55分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	<p>会長：武田雅子 副会長：野間春二 委員：細井邦夫、濱崎昌子、富澤佳代子、伊波真貴子、森忠、石橋いづみ、紺野和子、遠山久敬、奥田泰弘 職員：島崎館長、近藤事業係長、伊佐分館長、長谷部分館長、玉木分館長、香坂分館長、小林分館長、藤森公民館主事、村上公民館主事</p>
欠席者	木村俊二、柳澤英之、下栗庸隆
議題	<p>(1) 第6回定例会会議録について (2) 報告事項 1. 行政報告 2. 事業計画・報告書について 3. 利用者懇談会報告 4. 公民館だより編集会議報告 5. 公民館・図書館整備懇談会報告 6. 都公連新任委員研修会参加者報告 7. 講師派遣事業の報告会について (3) 協議事項 1. 公運審委員の役割 (4) 次回の日程について</p>
会議資料の名称	<p>(1) 事業計画書 1. 子どもの心がキズつく時～虐待・親子の関係を考える～（保谷） 2. 「創作七宝」講座（保谷） 3. 自己表現講座「江戸芸かっぼれ」（芝久保） 4. 公民館の戦後史（芝久保） 5. アフリカン・パーカッション体験（谷戸） 6. 子ども陶芸講座（住吉） (2) 事業報告書 1. ガチャポンアサラトを作ろう！演奏しよう！（谷戸） 2. わがまちの財政分析入門講座（住吉） 3. 盲導犬を知ろう（住吉）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	

(1) 第6回定例会会議録について

※ 文言の訂正の申し出を受け、他は了解。

(2) 報告事項

1. 行政報告

○館長：

9月議会の続報だが、予算特別委員会でも公民館に関する質問は出なかった。今後の議会日程だが、11月7日から10日までの4日間に決算特別委員会が開催される。16年度決算の審査になる。

2. 事業計画・報告書について

○委員：

保谷公の七宝焼き講座は大人と子どもの交流ということになっているが、対象は大人なのか、子どもなのか。2回連続で出る必要があるのか。

○職員：

創作活動の中で、大人と子どもの交流を深めたいという趣旨で、中心は子どもであるが、指摘のようにこのままだと大人ばかりになってしまう可能性がある。公民館だよりの掲載に注意したい。回数も、誤解を生まないように掲載したい。

○会長：

計画書の提出が遅れると公民館だよりのゲラができてしまっても変更ができなくなる。もっと早めに企画するよう努力してほしい。

○委員：

保谷公の「子どもの心がキズつく時」の講師を派遣する社会福祉法人は、どのような団体で、児童相談所との連携等はどのようになっているのか。

○職員：

20年以上前から活動している法人だ。電話相談や啓発・啓蒙活動を行ったりしており、必要に応じては児童相談所との連携もとっているものと思う。

○委員：

謝礼の額だが、社会福祉法人の職員も他の講師と同じ基準で決めているのか。

○職員：

謝礼の額に細かい基準は設けていない。おおむね2万5千円を上限として、予算の範囲で直接交渉をしている。

○委員：

基準がはっきりしていると額も決めやすいと思って発言した。

○委員：

芝久保公の「かつぼれ」は対象が市民ということは、大人でも子どもでもいいのか。

○職員：

もちろん誰でもいいが、時間帯を考えると子どもの参加は困難だと思う。もしも相談があれば受け入れは可能だ。

○委員：

谷戸公の「アフリカン・パークッション」の謝礼の額が6回で11万だと割り切れない。どういう計算か。

○館長：

5回トータルで、1人2万5千円で4人分。最終回の発表会に1万円で計算したと報告を受けている。

○委員：

住吉公の「盲導犬を知ろう」には、募集定員を越す応募があった。他館でも実施に向けて検討してはどうかと思う。

3. 利用者懇談会報告

○会長：

各館の懇談会の内容を簡単に報告してほしい。

○職員（保谷公）：

9月29日の午後は、参加17人だったが、10月5日の夜間は、参加5人で寂しかった。できる限り公民館からのご希望は少なくして、1人1人から意見を聞きながら進めた。とは言っても、懸案の部屋確保の困難性と特例使用の促進については避けて通過できないので、前回谷戸が示したようなデータに基づく報告と、再度のアンケート調査についての了解を求め、特に異論はなかった。今後は、アンケート調査のデータに基づいて、特例使用をしたい団体どうしの連絡を館側が取り持ちたい。

玄関横のスペースに車を置かないようにしてほしいという説明に対しては、1回は全員了承したが、2回目ではかなり異論が出た。車での利用者が参加者にいたかどうかで意見が分かれたものと思う。

今回の懇談会は、できれば利用者連絡会のようなものができる雰囲気まで持っていきたかったが、館側の希望を述べるのみに終わってしまい、まだまだ時間はかかりそうだ。

○職員（田無公）：

10月5日に10人、10月6日の夜は1人しか来なかった。その1人も住吉公の利用者であった。

公民館側の要望事項を話した後に意見を聴取したが、主催事業が部屋の団体利用を妨げているので、事業の企画が済んだら、何月何日にどんな事業を企画しているかどうかを示してほしいという意見が出た。できる限りの対応をしていきたい。現状の3区分では使いづらいため、区分の見直しについての意見が出た。システムの契約変更時まで無

理である点は報告した。18年度事業についての要望は特に出なかった。

住吉公の利用者の意見は、保谷駅前に移転をしても、部屋の機能は同等のものが欲しい、これまで車をたくさん置けたので、移転後も車や自転車を置くスペースは確保して欲しいという意見であった。

○職員（芝久保公）：

10月3日の夜に行い、12人が参加した。事業に対してというよりは、さまざまな意見が総花的に出された。主なものを報告する。

シニアクラブの運営について。子どもの居場所について。警備員の問題。講師派遣事業に対する要望。2007年問題については公民館だけで対応することのないよう、全庁的に取り組んで欲しい点。さらに、各部屋の鍵の開け閉めを自己管理して欲しいという件については、これからも考えていくことになった。

○職員（谷戸公）：

10月15日の午前に行い、12人が参加した。

谷戸では以前から利用者どうして意見を出し合い、懇談会を進めている。公民館側からの一方的な説明は、できる限り避けている。

懇談の中で、住吉公の移転に伴い、利用者が谷戸に流入するのではないかという危機感を募らせる意見が出た。現在でも利用率が高いのに、これ以上利用サークルがふえると活動が困難になるという趣旨だ。続いて、視聴覚室の床のカーペットをフローリングにしてほしいという要望が出された。現在の床は改修して2年目であり、今後の課題である点を説明したが、音響効果や衛生面からフローリングを求める声が高まっている。

谷戸には利用連という組織があり、12月に総会が行われる。ここには40人以上の人が集まって公民館の利用について議論がされる。こちらは住民主体の会議であるが、私も参加して意見を拝聴することになっている。

○職員（住吉公）：

9月28日の午後には6人が参加しこのうち公運審委員が3人いたので、利用者は3人。9月30日の夜は予定時間を30分過ぎても1人も現れなかったので、中止する旨張り紙をして帰ったが、現時点で苦情は出ていない。

利用者から、住吉が公民館らしい事業を常に行っているという点について、賞賛の声をいただいた。これに対しては、今後も続けて参加して欲しいことをお願いした。

○職員（ひばり公）：

10月4日の午後には13人、その夜には9人参加した。

公民館としての現況を説明した後意見を聞いた。

ひばりが丘公民館は開館以来駐車場がない施設であるが、1台もないのは公共施設としてふさわしくないという意見が出された。特に夜の利用者は、車でないと怖いという意見であるが、館としては、物理的に不可能であり、近くの有料駐車場などを利用して欲しいというお願いに終始した。備品整備に関しては、開館時にオーディオ機器に力を入れて開館したが、その後備品が壊れても適宜な修理をせずにこれまで過ごしてきた。利用者はその都度懇談会で指摘していたようだが、予算がないという一言でこれまで来てしまった。職員は、毎年のように異動してしまうが、利用者は何年も通っており、こ

の事情については理解できることだと思った。今後はきちんとした備品を配置するよう努力したい。他にも、公民館の有料化の問題。冷暖房を利くようにしてほしいといった、団体要望がほとんどの懇談会であった。

○会長：

だれも来ない館があったりと、人数にばらつきはあるようだが、市民要望には適切に応えて欲しい。

4. 公民館だより編集会議報告

○委員：

10月4日に住吉公民館で開催した。10月号の反省。1面のオンリーワンクルーの記事に市民からの反響があり、会からお礼の連絡が入った。今回も会員募集の記事が多く、すべてに応じきれていない。今後は、希望する号に掲載できないことがある旨の伝達を徹底したい。

11月号の1面は、芝久保公民館まつりと南京玉簾の会。11月号も公民館の主催事業の掲載が多く、会員募集は次号に送られるものが出ている。12月号の1面は、中学生の公民館での職場体験の記事にすることで予定している。サークル訪問は、ハーモニカアカデミー。12月号も会員募集の掲載はあまり多くの紙面を割けそうにない。

○委員：

紙面の使い方について提案したい。見開き中央や欄外の白紙部分を使うことはできないのか。東京都の広報では使っている。公民館の標語などを載せてはどうかと思う。

○職員：

印刷会社に確認したい。

○委員：

編集委員の構成を確認したい。

○職員：

職員6人と公運審3人でやっている。来年度は、市民を編集委員に入れられるような講座を組みたい。

5. 公民館・図書館整備懇談会報告

○副会長：

9月、10月に1回ずつ開催した。委員は9人で構成している。

第1回目は、9月1日に行い、事務的な報告と昨年「新しい公民館・図書館のあり方」懇談会の提言の説明、正副座長の互選等を行い、座長には大澤氏、副座長には風袋氏が選ばれた。会の目的は、公民館・図書館の施設整備についてで、来年の3月までが任期だ。月1回の開催で、7回ほど予定している。

中心の話題は、保谷駅前施設の開設に当たっての検討。既設の他の施設の整備やリニューアルについてだ。特に田無公民館・中央図書館についてが懸案になると思う。

第2回は10月12日に開催され、保谷駅前の再開発ビルの概要について説明を受けた。

第2街区の4階が図書館で、5階に公民館を配置する予定だそうだ。あり方懇談会の提言をベースにした機能とコンセプトの説明が事務局よりあった。公民館は、学習室、自習室、調理室、保育室、印刷室などが求められると思うが、建物のスペースが思ったより狭いのでどこまで要求が適えられるのかが課題だ。

第3回は、11月16日の予定。今後は、具体的な部屋割りの案を考えることになる。

○委員：

再開発ビルに移転の公民館の市民説明会は予定されているのか。

○館長：

11月26日に第1回目の説明会を午後6時から8時の予定で行う。会場は下保谷図書館。

6. 都公連新任委員研修会参加者報告

○会長：

10月1日の研修会の様子を、代表して3人の委員に報告してほしい。

○委員：

全体会の後、第9グループに参加した。公民館が各市によって運営の違いがあることが大変良くわかって参考になった。東村山市では、運審委員全員が担当の公民館を決めて、2人1組で訪問して問題点をまとめているそうだ。小金井市では、公運審のほかに、市民による事業の企画実行委員がいて職員と検討をしているということを知った。実行委員は有償ということである。

○委員：

第8グループで討議に参加して、各市の状況をつぶさに確認した。私のグループの東村山の委員は、夜に担当の館の活動サークルを訪問して意見を聞いているそうだ。運審委員であることを示すための名札を館に作ってもらい、お陰でスムーズに意見聴取が可能になっているそうだ。国分寺の本多公民館では、地域会議を開催している。1学期に2回のペースで地域の各層の人々が集い、話し合いを行っている。地域を考えるきっかけになっているということだ。他にも、埼玉県での事例なども話題になった。

○委員：

全体会の講義は埼玉大学の安藤教授から分科会での話し合いがスムーズに進むような話題を提供してもらい、分科会に臨んだ。国立市では公民館50周年事業を展開しており、大変参加者が多いそうだ。あわせて、職員の異動が早くなっており、それに対しての危機感がある旨の報告を受けた。これに対しては、町田市の委員からは、公民館の職員も定期的に異動すべきなのではないかという意見が出され、見解が分かれた。なお、町田市には公民館が1館しかない関係で、遠隔地への出前講座を行っているとのことだ。東村山の事例だが、公運審委員が主催講座を企画して行っているということも聞いた。昭島市からは、若い人々を公民館に集めるために苦心している話が出ると、国分寺の委員からは、若い人を集めるためのアドバイスがあり、有意義な情報交換が行われた。その国分寺からは、利用者が多くて部屋の確保ができない不満が多く出されている点が報告され、各館で特色を持って運営がされている実態をつかめた。

ただし、他の館にはそれぞれ地域や施設の特徴があり、自分の地域では何を生かしていかなければならないかということは、十分考えなければならぬことと感じた。

○委員：

今の報告の国分寺の事例であるが、おそらく光公民館のことではないかと思う。あの館は、児童館との併設で、防音の整った音楽室が施設の特徴である。今の若者に音楽室は必需品である。今の若者は、夜や明け方でも、有料のスタジオが確保できると出向いて練習をしているのが現状だろう。埼玉の鶴ヶ島市の公民館は、3館に音楽室があるために若者が多く集まるという事例報告も聞いている。

既設館には難しいと思うが、この次にオープンする保谷駅前の施設にはスペースを確保するチャンスだと思う。若者のためのスペースを考えてもいいのではないか。

小金井市の企画実行委員会は三多摩では有名な事例であり、他市からも参考にされているが、現在有償で行っているのはたぶん小金井だけだと思う。50年からの歴史のある営みである。参考までに各市の状況を付け加えておく。

○委員：

50年続くという企画委員会の秘訣を知りたいが、実際になり手がいるのか。

○委員：

私のグループにも小金井市の委員がいたが、企画委員のなり手は大変多く、毎回選考に苦慮しているという報告を受けた。伝統の力だと思う。

7. 講師派遣事業の報告会について

○会長：

次第にはないが、申し出があったので急遽議題にしたい。

○職員：

10月22日の午後に、報告会および懇談会を行うことになっている。都合のつく委員には出席して欲しい。報告会には、12団体が現状報告を行う予定。第二部の懇談会は前回の反省を踏まえ、質問・意見を受けるだけでなく、前回の回答も含み意見の交換は行いたい。

○委員：

前回の質問・意見を集約すると、なぜ特に問題のない事業の要綱を変更するのか、というものが多かったと思う。そのへんは当日示していきたいと思っている。

例としては、同一内容の利用が多い点だが、16年度と17年度の比較でも、9団体で同じ講師であった。この10年間同じ講師を申請する団体があったり、5年間同じ例もあったことなどは報告したい。

次に、講師派遣事業を使わないとできない内容なのか疑問に思う相談もあった。これは実施例ではないが、自分のエッセイを話したいという相談、1人で5件分の企画を考えたので申請しても良いか、という相談も受けているが、申請が複雑という意見がある中で、要領をつかんだ人にすれば、申請内容を満たしてしまうと認めざるを得ない現状なども報告していきたい。これらについては、申請会という新たな方策も提案してみたい

と思っている。申請会で自分たちの考えをオープンにすることで、会員向けの内容になっていないか、会の学習要求の実現だけでなく、市民への学習機会の提供という部分をより強くアピールしてもらいたいというものである。また、対象グループの人数が現在は3人以上ということになっているが、何年たっても人数がふえないグループや、家族だけが会員のグループなどがあり、申請内容を市民が判断できるような会をできればよいと思っている。

○会長：

委員各位、時間の許す範囲で出席して欲しい。ここで暫時休憩したい。

午後8時9分休憩

午後8時14分再開

(3) 協議事項

1. 公運審委員の役割

○副会長：

前回の会議で了承いただいた、奥田委員からのレクチャーに対する質疑応答の回答を含めて、公運審委員の役割について引き続きレクチャーいただきたい。

※奥田委員説明

○副会長：

ただ今、奥田委員からの宿題も受けたので、次回も引き続きレクチャーを受けていきたい。

○委員：

先日、車座集会に出席した。市長に公民館の実態について質問した。その折に、市のホームページのトップ画面に公民館のアイコンがないことを指摘したが、市長は知らなかった。市の施設が有効に使われるよう、申し上げていかなければならないと思う。

(4) 次回の日程について

○副会長：

次回の日程を確認する。

11月16日（水曜日） 午後6時30分 田無公民館 第2学習室

これにて、本日の会議を散会する。